

森鷗外
高瀬舟縁起



登場人物

ナレーター

◆小説「高瀬舟」の原案と作品に込めたテーマについて。
◆ナレーター

京都の高瀬川は、五条から南は天正十五年に、二条から五条までは慶長十七年に、角倉了以が掘ったものだそうである。そこを通う舟は曳舟である。元来たかせは舟の名で、その舟の通う川を高瀬川と言うのだから、同名の川は諸国にある。しかし舟は曳舟には限らぬので、『和名鈔』には釈名の「艇小而深者曰舳」とある舳の字をたかせに当ててある。竹柏園文庫の『和漢船用集』を借覧するに、「おもて高く、とも、よこともにて、低く平らなるものなり」と言っている。そして図には篙で行る舟がかいてある。

徳川時代には京都の罪人が遠島を言い渡されると、高瀬舟で大阪へ回されたそうである。それを護送してゆく京都町奉行付の同心が悲しい話ばかり聞かせられる。あるときこの舟に載せられた兄弟殺しの科を犯した男が、少しも悲しがつていなかった。その子細を尋ねると、これまで食を得ることに困っていたのに、遠島を言い渡された時、銅銭二百文をもらったが、銭を使わずに持っているのは始めだと答えた。また人殺しの科はどうして犯したかと問えば、兄弟は西陣に雇われて、空引きということをしていたが、給料が少なくて暮らしが立ちかねた、そのうち同胞が自殺をはかったが、死に切れなかった、そこで同胞が所詮助からぬから殺してくれと頼むので殺してやったと言った。

この話は『翁草』に出ている。池辺義象さんの校訂した

活字本で一ペエジ余に書いてある。私はこれを読んで、その中に二つの大きい問題が含まれていると思った。一つは財産というものの観念である。銭を持ったことのない人の銭を持った喜びは、銭の多少には関せない。人の欲には限りがないから、銭を持ってみると、いくらあればよいという限界は見いだされないのである。二百文を財産として喜んだのがおもしろい。今一つは死にかかっている死なれずに苦しんでいる人を、死なせてやるという事である。人を死なせてやれば、すなわち殺すということになる。どんな場合にも人を殺してはならない。『翁草』にも、教えない民だから、悪意がないのに人殺しになったというような、批評のことがあったように記憶する。しかしこれはそう容易に杓子定木で決してしまわれる問題ではない。ここに病人が死に瀕して苦しんでいる。それを救う手段は全くない。そばからその苦しむのを見ている人はどう思うであろうか。たとい教えのある人でも、どうせ死ななくてはならぬものなら、あの苦しみを長くさせておかずに、早く死なせてやりたいという情は必ず起こる。ここに麻酔薬を与えてよいか悪いかという疑いが生ずるのである。その薬は致死量でないにしても、薬を与えれば、多少死期を早くするかもしれない。それゆえやらすずにおいて苦しませていなくてはならない。従来^{じゅうらい}の道徳^{どうとく}は苦しませておけと命じている。しかし医学社会^{いがくしゃかい}には、これを非とする論^{ろん}がある。すなわち死に瀕して苦しむものがあつたら、らくに死なせて、その苦を救ってやるがいいというのである。これをユウタナジイという。らくに死なせるという意味である。高瀬舟^{たかせぶね}の罪人は、ちようど

それと同じ場合にいたように思われる。私にはそれがひどくおもしろい。

こう思っおもて私わたしは「高瀬舟たかせぶね」という話はなしを書かいた。『中央公論ちゅうおうこうろん』で公おおやけにしたのがそれである。

〈完〉

〈完〉

Podcast ののラジオ 好評配信中！



視聴・購読はこちらから
<https://gekidannono.com>

ご意見・ご感想はこちらへ
radio@gekidannono.com

劇団ののでは、名作文学を声に出して演技し、収録した音声を Web 上で配信しています。複数名で読むラジオドラマタイプ、単独で読む朗読タイプなど、様々な形で朗読をしています。

みなさんも一緒に朗読を体験して楽しんでいただけるよう、本文に出てくる言葉や物語の解説も、公式サイト上で公開しています。

いつか国語の教科書で読んだ気がする、芥川龍之介・宮沢賢治・夢野久作などのあの作品やこの作品、ぜひ、役者の声でお楽しみください。

劇団ののと読む名作文学 森鷗外

『高瀬舟縁起』 Podcast 版

発行日 令和 5 年 3 月 11 日

著 者 森鷗外

編 集 劇団のの

発 行 劇団のの

[https://gekidannono.com/
radio@gekidannono.com](https://gekidannono.com/radio@gekidannono.com)

※本文は、青空文庫様掲載の原文を加工したものです。

ゴシック体のルビは、原文に振られていたものです。

底 本 『山椒大夫・高瀬舟』岩波文庫 1990（平成 10）年

初 出 1916（大正 5）年

図書カード URL

<https://www.aozora.gr.jp/cards/000129/card46234.html>

